

Ⅲ 平成 14 年の集計結果

1 がん死亡数

(1) 部位別

がんが原死因であった死亡について部位別に死亡数をみると、男では肺が最も多く、次いで肝臓、胃の順に多かった。女では胃が最も多く、次いで肺、肝臓の順に多かった。

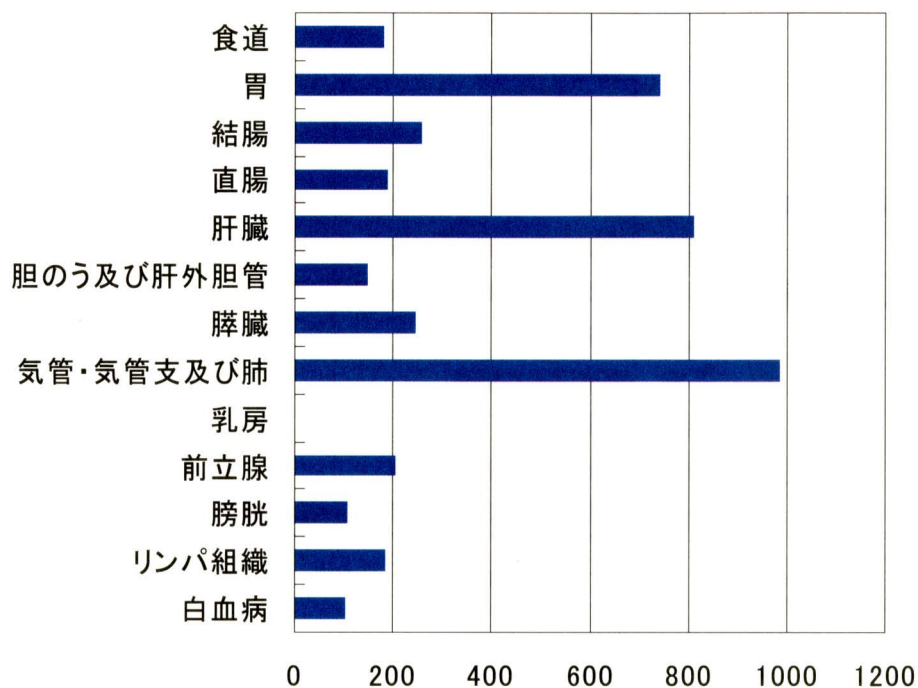


図 3 - 1 部位別にみたがん死亡数（男，平成 14 年）

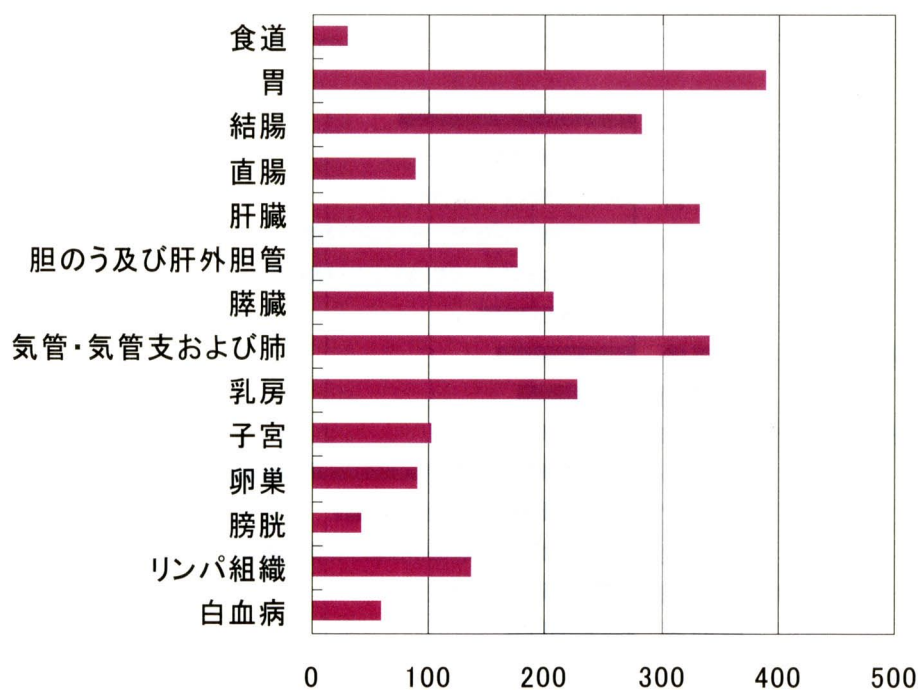


図 3 - 2 部位別にみたがん死亡数（女，平成 14 年）

（２）全国との比較

全国を基準とする標準化死亡比は、全部位で男が 1.04、女が 0.94 であった。死亡数の多い部位のうち、男女とも肝臓の標準化死亡比が高かった。

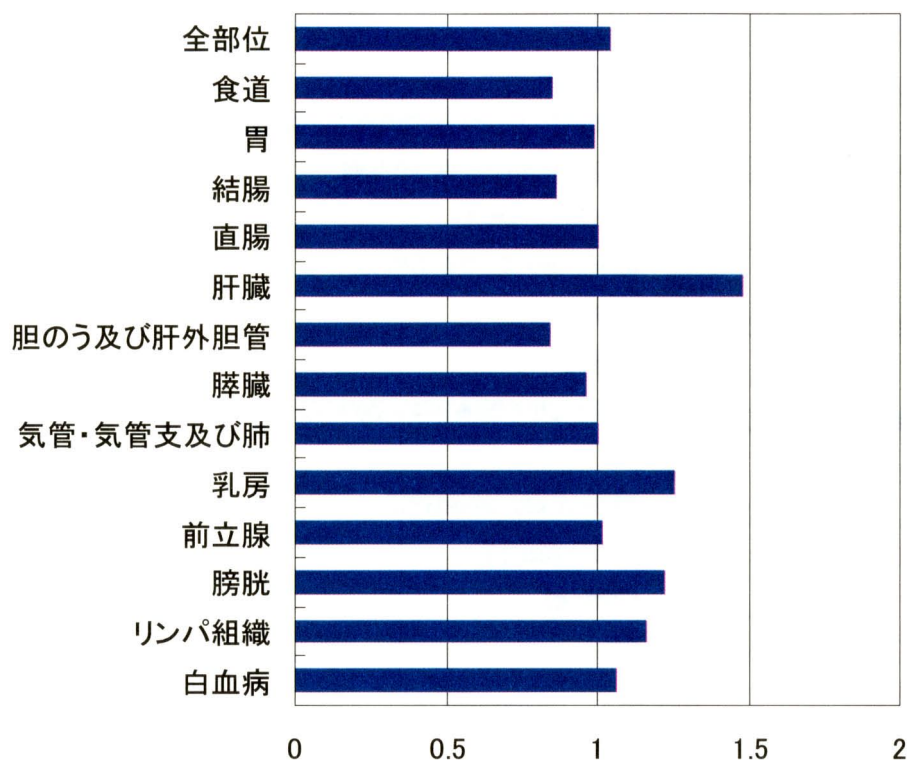


図 3－3 部位別にみた標準化死亡比（男，全国を基準，平成 14 年）

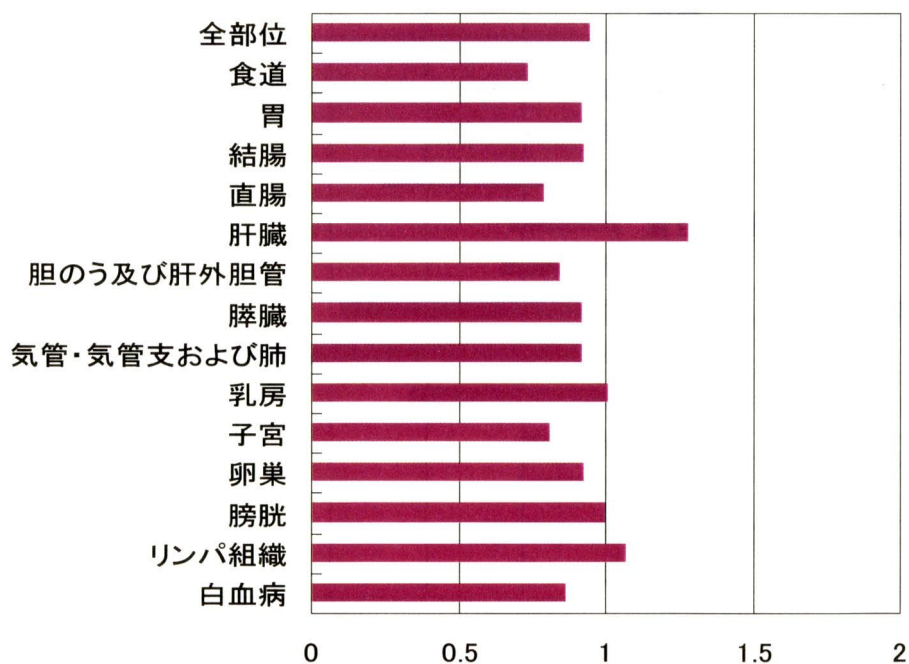


図 3－4 部位別にみた標準化死亡比（女，全国を基準，平成 14 年）

2 がん罹患数

(1) 部位別

がん罹患数を部位別にみると、男では胃が最も多く、次いで肺、結腸の順に多かった。女では胃が最も多く、次いで乳房、結腸の順に多かった（Ⅵ 付表の平成 14 年の表 1－A 参照）。

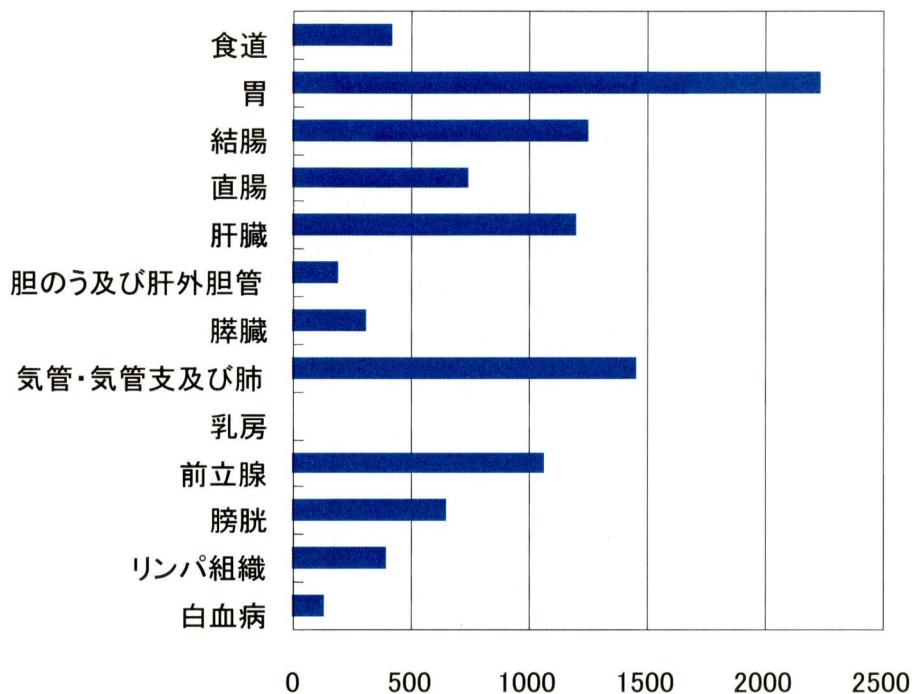


図 3－5 部位別にみたがん罹患数（男，平成 14 年）

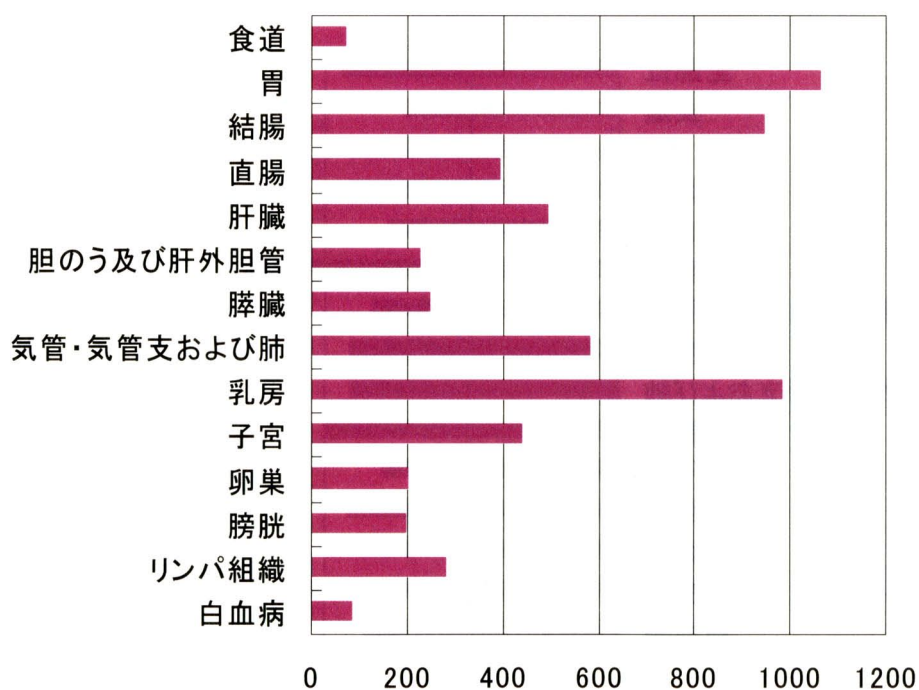


図 3－6 部位別にみたがん罹患数（女，平成 14 年）

(2) 年齢階級別

性別年齢階級別にがん罹患数をみると、50～54歳の年齢階級までは男女の罹患数がほぼ同数であるが、それ以上の年齢階級では女より男の罹患数が約2倍多かった（VI 付表の平成14年の表2参照）。

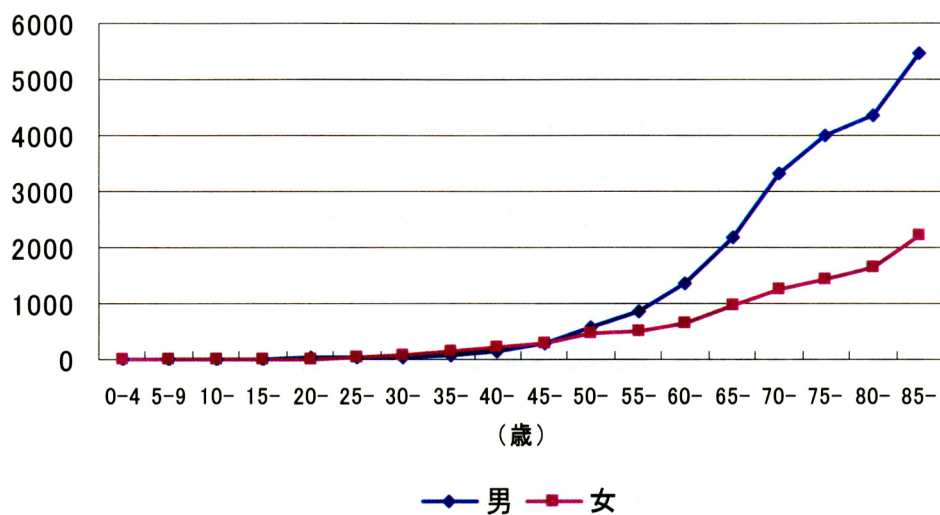


図3-7 年齢階級別にみたがん罹患数（平成14年）